

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

学校名【常滑市立大野小学校】

1 実践テーマ	【 III・V 】
2 実施対象者	5年生 36名 6年生 42名 ※ニュースポーツ体験については全校児童258名が参加
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (体育 (ア・イ)・道徳 (ウ)) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	1 ニュースポーツ体験 ボッチャやカローリングなど、馴染みの少ないスポーツ体験を通して、スポーツに対する興味・関心を高める。 2 ボッチャ体験と障がい者スポーツに関する講演 パラリンピック競技（ボッチャ）の体験やパラリンピアンと交流のある方からの講演を通して、障がい者スポーツの存在意義や障がい者についての理解を深める。 3 教材「I'm possible」の活用 教材「I'm possible」の「公平について考えてみよう！」の活用を通し、障がいのある人もない人もともに生きる社会（共生社会）の在り方について考えようとする。
5 取組内容	1 ニュースポーツ体験 (1) 実施月日 6月1日（土）・10月17日（木）の学校公開日 (2) 対象 全校児童 (3) 内容  さまざまなスポーツの普及活動を日ごろより行っている常滑市スポーツ推進委員の方を講師として招き、ニュースポーツの体験を行った。 「ボッチャ」「カローリング」「クオリティ」「ラダーゲッター」「ダーツ」の5種目を全校児童が体験し

た。多くの児童にとって、どの種目も初めて体験するものばかりであり、夢中になって取り組む姿を見ることができた。

児童からは「初めてやったけど、どの種目もとても楽しかった。」「もっと体験したかった。」などの声を聞くことができた。また、学校公開日に実施したことにより、保護者にも一緒に体験していただくことができた。保護者からも「意外と難しいけど、楽しいですね。帰った後に今日の体験のことを話題にしたいです。」などの声が聞かれた。

ニュースポーツ体験を受け、5・6年生は後日、ボッチャがパラリンピック競技であることや詳しいルールなどについて、教材「I'm possible」の映像資料を活用して学習した。



2 ボッチャ体験と障がい者スポーツに関する講演

- (1) 実施月日 11月21日(木) 2・3時限
- (2) 対象 5年生・6年生
- (3) 内容



あいちボッチャ協会副会長の荒賀博志氏を講師に招き、パラリンピック競技であるボッチャを本格的に体験した。

事前に教材「I'm possible」の映像資料でルールなどについて学習していたこともあり、ボールの投げ方などの基本的な動作練習の後、すぐにチームに分かれ、ゲーム形式での対戦を行った。講師の先生の助言を受けながら、次の一投をどこに投げればよいのかを積極的に相談し合う姿がどのチームにも見られた。また、投げたい場所にうまく投げられなかった友達に励ましの声をかけたり、上手に投げられた友達を賞賛したりするなど、勝利したいという目標に向かって、チームで協力し合う姿が見られた。体験後の児童の感想には「ボッチャ体験ではボールをジャックボールに近づけたり、狙ったところに投げたりするのがすごく難しかった。あんなに難しいことを体の不自由な人が上手にできるなんてすごいと思った。体験でボッチャのすばらしさと楽しさを知ることができた。」とあり、障がい者スポーツへの関心の高まりにつながる貴重な機会となった。

体験後には、講師の先生より障がい者理解や障がい者スポーツの意義についての話を聞いた。「YES I CAN - Paralympics RIO 2016 - We're The Superhumans!」の動画を視聴した後、動画の内容を振り返りながら、「障がいがあってもやり方を工夫すれば何でもすることができると」という話を聞いた。また、講師の先生自身も左腕の自由がきかないこと、工夫や努力を重ねたことで右腕のみでジャージのファスナーを開け閉めできるようになったことなどを実演を交えて話していただいた。さらには、スポー





ツのもつ魅力、パラリンピックの歴史やパラリンピックの父と呼ばれるルートヴィヒ・グットマンの「失ったものを数えるより、残されたものを最大限に生かせ」という言葉を紹介していただいた。児童の感想には「障がいがある人にもできることがたくさんあることに気付きました。」

「講演を聴いて、なんだかできないと思っていたことができるような気持ちになりました。」「障がいのある人もスポーツをすると元気になるという話があったけど、ボッチャの体験を通して、元気になるという意味がよく分かりました。」などと書かれており、多くのことを感じることでできる機会となった。

3 教材「I'm possible」の活用

- (1) 実施月日 12月 9日(月)
12月16日(月)
- (2) 対象 5年生・6年生
- (3) 内容



ボッチャ体験や講演を通して児童が気付いたり感じたりしたことをさらに深めるため、道徳の時間において「I'm possible」の「公平について考えてみよう!」を活用して、障害のある人もない人もともに生きる社会(共生社会)の在り方について考えた。

た。

「I'm possible」にある「2年1組のしょうたさんは、車いすを使っています。運動会でクラス対抗の玉入れをしますが、どのようなルールだと、みんなが楽しく競い合えるか考えてみましょう。」のシートを提示し、最初に個人でどのようなルールにしたらよいかについて考える活動を行った。その後、グループで各自の考えを発表し合い、グループとしての考えをまとめ、全体での発表を行った。「しょうたさんも楽しめるように、全員が椅子に座ってやればよい。」「かごを低くすればよい。」「しょうたさんが玉を拾わなくていいように、玉の入った箱を車椅子に備え付けておけばよい。」など多くの考えが出された。どのルールがよさそうか意見を出し合う中で、「かごを低くすれば、しょうたさんも玉を入れられるけど、他の子の楽しさが減るかもしれない。」との意見も出された。そこで再度、「みんなが楽しむためには」ということを考えさせたところ、「どうしたらよいか、しょうたさんに聞いてみればいいんじゃないか。」との考えが出された。振り返りのワークシートには「他の人たちだけで考えるのではなく、本人(しょうたさん)の意思を聞くことが大切だということに気付いた。」「一人一人が違うからみんなが平等になるようにするのも大



	<p>切だけど、本人（しょうたさん）の意見を聞いたりすることが一番大切なんだと思った。」などの感想がみられ、第三者が勝手に判断するのではなく、相手の立場になって公平な方法を考える必要があることに気付く機会となった。</p>
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童にとって馴染みの少ないニュースポーツを体験する機会を設けたことで、スポーツに対する児童の興味・関心を高めることができた。 ・パラリンピアンと交流のある講師の先生から助言を受けながら、ボッチャを本格的に体験する機会を設けたことで、ボッチャの難しさや奥深さに気付くとともに、障がい者スポーツへの関心を高めることができた。 ・障がいのある講師の先生から話を聴く機会を設けたことで、障がいのある人にもできることが多くあることに気付くなど、障がい者スポーツの意義や障がい者についての理解を深めることができた。 ・教材「I'm possible」の「公平について考えてみよう！」を活用することで、障がい者とともに生活していく中では、第三者が勝手に判断するのではなく、相手の立場になって公平な方法を考える必要があることに気付くことができた。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ・常滑市スポーツ推進委員や大野小おたすけ隊の方など、地域の方の協力を得てニュースポーツ体験を行った。 ・児童のみならず保護者の方にもスポーツに興味・関心をもっていただけよう、ニュースポーツ体験を学校公開日に行った。 ・ボッチャ体験と障がい者スポーツに関する講演を行うにあたり、常滑市社会福祉協議会の協力を得ながら講師の先生をお招きした。
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・ボッチャ体験は児童にとって有意義なものとなった。今後、ボッチャを継続して行えるよう、教育課程編成上の位置付けを研究していく必要がある。 ・ボッチャ体験を行うに当たり、さまざまなおところよりボッチャセットを借用した。ボッチャセット自体が高額であるため、今後、継続実施していく上でどのようにボッチャセットを確保していくかを検討する必要がある。 ・東京オリンピック・パラリンピックが行われる来年度以降も、障がい者スポーツや障がい者についての理解を深めたり、関心を高めたりすることのできる実践の在り方を引き続き検討していく必要がある。
9来年度以降 の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ・「東京2020パラリンピック聖火フェスティバル」の一環として常滑市が実施する聖火の採火関連事業に参加し、採火に使う焼き物の絵付けとユニバーサル・ラン（スポーツ義足体験授業）を実施する予定である。 ・東京オリンピック・パラリンピック実施後においても、障がい者についての理解などが継続して深められるよう、本年度と同様に人権週間の時期を活用した取組を実施する。